

市道工事現場で露出 化石含む地層を調査

瑞浪で専門家ら

瑞浪市明世町の市道工事現場で露出した化石を多く含む地層の現場調査が九日、始まった。市化石博物館の安藤佑介学芸員と、地質学が専門の星博幸愛知教育大教授が化石や岩石を採取した。

現場の地層は、約千八百万年前の新生代にあたる瑞浪層群戸狩部層で、県天然記念物「明世化石」の一部。市道工事は昨年十一月から始まり、今年三月ごろに約



百五十坪区間で化石を多量に含んでいることが分かった。浅い海に生息したとされるナカムラスタレハマグリなどの貝類が多く見つかったことから、博物館は他の生物の化石が見つかる可能性が高いとしている。

この日は、安藤学芸員がハンマーを使って地層から

化石を多く含む地層（黒い部分）を主に調査する安藤学芸員（瑞浪市明世町）で

巻き貝やエビの仲間の化石を採取。星教授は専用のドリルで地層に水平な穴を開け、長さ十センチ、直径二センチほどの岩石試料を取り出した。試料には軽石のような斑点が見られ、火山活動が活発だった可能性があるといる。今後詳しく試料を分析する。

調査は市道工事が完了する来年三月まで並行して進める予定。安藤学芸員は「これまで明世化石では見つかっていない貝や動物の化石が見つかる可能性もあり、楽しみにしている」と期待を込めた。（真子弘之助）